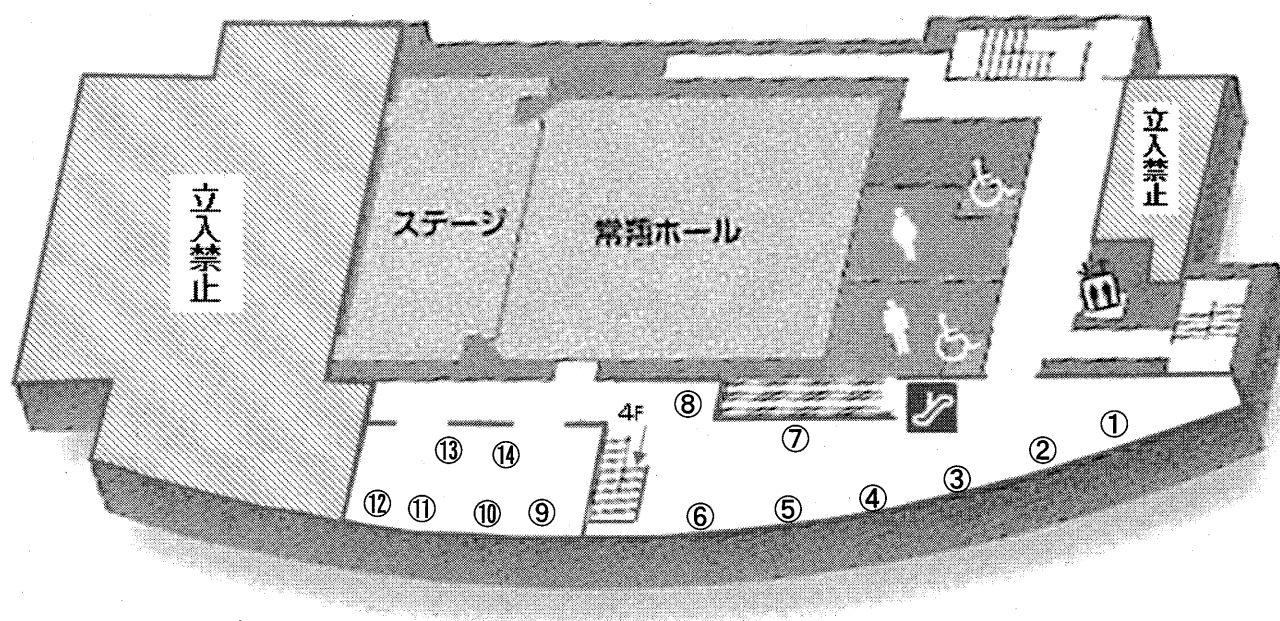


地理空間情報関連の機器・システム等の展示会

3階



- ① (公社)日本測量協会 関西支部
- ② クモノスコーポレーション(株)
- ③ アジア航測(株)
- ④ 福井コンピュータ(株)
- ⑤ (株)アスコ大東
- ⑥ 国土地理院 近畿地方測量部
- ⑦ 西尾レントオール(株)
- ⑧ (株)コノエ
- ⑨ 国際航業(株)
- ⑩ ESRIジャパン(株)
- ⑪ (株)インフォマティクス
- ⑫ GIS大縮尺空間データ官民共有化推進協議会 支援グループ
(一社)大阪府測量設計業協会
- ⑬ (株)パスコ
- ⑭ 中央復建コンサルタンツ(株)

測量機器・測量成果の検定

測量は、防災調査や公共事業に先立って行われる基礎（基盤）であり、測量成果の精度と品質は公共事業に大きな影響を及ぼします。検定による測量成果の品質確保は社会的な観点からも重要な役割を果たします。



これまで日本測量協会は、国土交通省、地方公共団体、測量業界、測量関係者、測量関係の「測量関係者」

と「測量成果検定」を実施してきました。国土利用に関わる測量成果の精度と品質を確保し、測量成果の信頼性を向上させることを目的として、測量成果の検定を実施しています。この検定業務については、測量関係者へお知らせいたします。

公益社団法人日本測量協会 関西支部 TEL: 06-6435-8772
mail: kansai@jgs.jp



「測量関係者」の
参加団体・企業等

関係者



公益社団法人 日本測量協会

1





一等三角点「氷ノ山」柱石 - 131年ぶりに下山 -



※写真11等量に拡大したもので、実際の大きさは約10cmです。柱石の表面には、刻印された「一等三角点」という文字が確認できます。

ここに設置しています柱石は、今から131年前の明治21年7月に兵庫県の最高峰である氷ノ山の山頂（標高1510m）に埋め込まれたもので、今年度実施します柱石交換（令和元年10月31日予定）に伴い回収してきます。なお、柱石標石は掘り出された時のまま、剥離面は131年に遡る新しい自然面により断面が変化したため45cmに切断（切断前：82cm）し修理しています。

右に示すのは、設置当時の点の記です。表の記は「三角点の中心」というもので、断面はたけでなく当時の様子を知る貴重な資料となっています。新田次郎の「断崖 点の記」は、これをタイトルにしたものであることは有名です。



一等三角点「氷ノ山」

日本の近代測量の基となった三角測量は、工部省測量局が明治4年東京府下に13点の三角点を設置したことに始まります。その後、北海道の南端と伊東地域を中心に約50点の観測を実施しました。ついで、明治7年内務省測量局が、前記測量局の仕事を引き継ぎ、明治8年に鹿児島県大隅半島として測量を開始し、その後全国測量と密着して各地の測量を進めました。

明治15年には、この三角点の測量100点が終了し、明治17年からは陸軍省測量部が測量を引き継ぎ、いよいよ全国的な三角測量が始まりました。

一等三角点「氷ノ山」は、明治19年8月に設置、明治21年7月に柱石を埋め込み後に観測が実施されました。



※写真11等量に拡大したもので、実際の大きさは約10cmです。柱石の表面には、刻印された「一等三角点」という文字が確認できます。



掘り出された一等三角点「氷ノ山」柱石



一等三角点柱石構造図

一等三角点「氷ノ山」の断面は、柱石の中心に、断面1510mの氷ノ山の山頂にこれを運び上げるには相当の苦労があったと推定されます。

また、設置されているのは、柱石本体のほんの一部であり、上層から露出した柱石、断面、下方断面があり、断面などには4つの断面があります。断面と下方断面は、断面できるように加工したもので、それぞれに刻まれた十字の中心が一致しています。ただし、断面などでは下方断面がないものもあります。

※一等三角点「氷ノ山」には十字の中心があります。



兵庫県 最高峰 (1,510 m)

一等三角点「氷ノ山」

— 明治21年、氷ノ山 山頂に設置され、131年ぶりに下山 —

国土交通省 国土院

